飯田丸五階櫓の石垣が復旧するまでの軌跡

平成28年の熊本地震で被災し一本柱になっても建物を支え、一躍注目を集めた飯田丸五階櫓の石垣がついに復旧完了へ。7年半以上にわたる歩みを振り返るとともに、携わったスペシャリストたちの熱い思いをご紹介します。

震災直後の飯田丸五階櫓

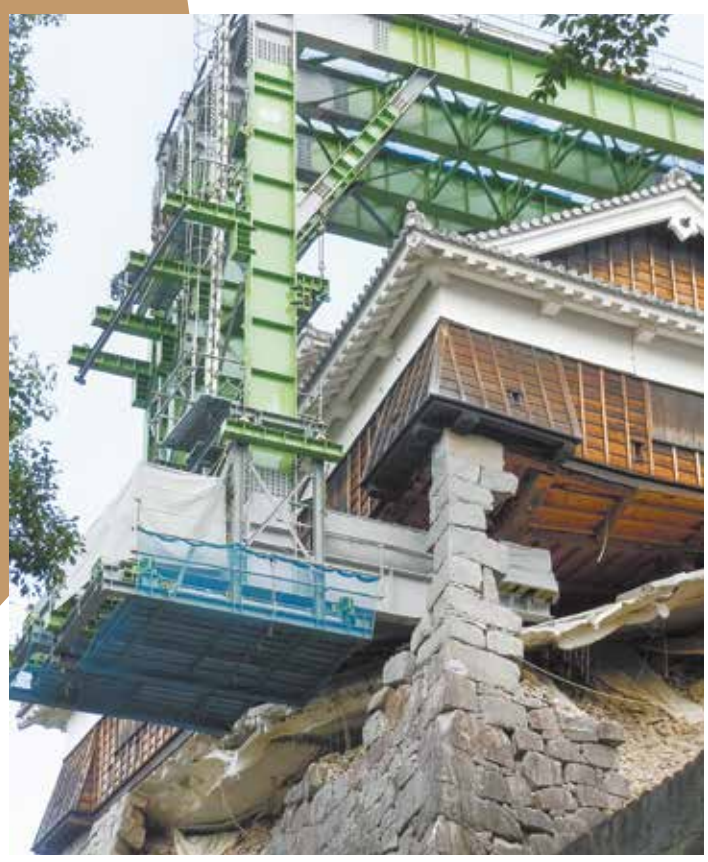
■飯田丸とは

飯田丸は南側の竹の丸、西側の行幸坂方面を望む高台に位置し、本丸の南西を防衛する重要な拠点でした。熊本地震以前に建っていた飯田丸五階櫓は、平成17年に復元したものです。櫓を支える石垣（高さ15m）と、南側に位置する要人櫓石垣（高さ6.5m）は、加藤清正の息子・忠広の時代である慶長16（1611）年以降、元和年間（1615～1624年）までに築かれたことがわかっています。

■飯田丸の被災状況

4月14日の前震で飯田丸五階櫓石垣の南面の約80石が崩落、続く本震で南面と東面の約500石が崩落しました。角の石垣のみで建物を支えていたため「奇跡の一本石垣」と呼ばれました。さらに、要人櫓石垣は一部に膨らみや緩みが生じました。今回の復旧工事では、地震被害を受けた飯田丸五階櫓・要人櫓の石垣の解体・積み直しを行いました。

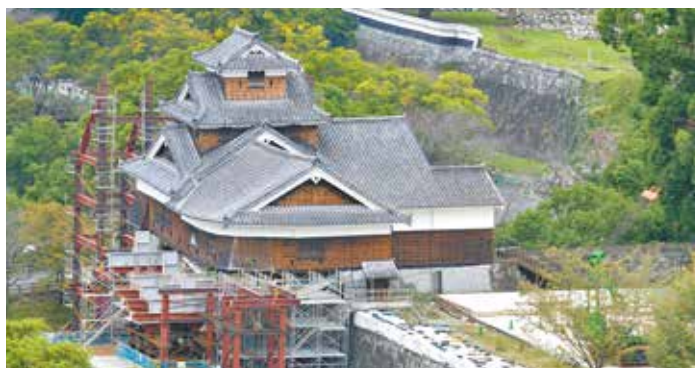
熊本城鳥瞰図（上が北）



平成28年6月～平成30年6月

倒壊防止・櫓本体解体作業

まずは緑色の鉄骨の構台を設置し櫓本体の倒壊防止を行いました。その後、櫓下に崩落した石材を無人重機を使って一石ずつ回収。さらに「一本石垣」の倒壊防止工事を行ったうえで櫓の解体に着手しました。瓦、壁土をはじめ多くの部材を再利用するため、柱や梁など一つずつ解体しながら回収する場合と、小屋組み全体を地上に降ろして安全に解体する場合を見極めながら丁寧に作業を進めました。



今回の復旧作業は、城郭や文化財石垣を持つ全国の自治体から応援に駆けつけてくれた多くの派遣職員と本市の職員が力を合わせることで実現しました。解体によって失われてしまう歴史の情報を一つ残らず記録した人、その情報を元に震災前の姿に戻そうと力を尽くした人。石垣とともに一人ひとりの思いも積み重なっています！

ここがスゴイ！

熊本城調査研究センター
文化財保護主事
佐伯 孝央